

映画 の 教室 2007



アルファヴィル

2007年 6月15日金 - 7月1日日

※金曜日・土曜日・日曜日の上映となります。

東京国立近代美術館フィルムセンター 小ホール(地下1階)

開映後の入場はできません。

定員=151名(各回入替制)

発券=地下1階受付

料金=大学・高校生**300円**

一般**500円**/シニア**300円**/小・中学生**100円**/障害者(付添者は原則1名まで)は無料

・観覧券は当日・当該回にのみ有効です。

・発券・開場は開映の**30分**前から行い、定員に達し次第締切となります。

・学生、シニア(65歳以上)、障害者の方は、証明できるものをご提示ください。

・発券は各回1名につき1枚のみです。

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

N	京	橋
F	映	画
C	小	劇
小ホール	場	
KYOBASHI-ZA		
No.6		

小ホール
上映作品

映画の教室2007
Film Class of 2007

映画史を飾る古典的な作品をフィルム上映で鑑賞する機会が激減する中、フィルムセンターは、新たに映画芸術に触れようとする方々を主なターゲットとして、所蔵作品の中から映画を学ぶ上で重要な秀作を上映する「映画の教室」を昨年度に引き続いて開催します。《京橋映画小劇場》第6回企画となるこの「映画の教室2007」では、外国映画6本、日本映画3本の計9作品を上映いたします。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

■監=監督 ○原=原作・原案 □脚=脚本・脚色 ●撮=撮影 ●美=美術・装置 ●音=音楽 ●出=出演
■記載した上映分数は、当日のものとは多少異なることがあります。

◆外国映画

1 6/15(金)2:00pm 6/23(土)3:00pm

アジアの嵐(127分・18fps・35mm・無声・白黒)
ПОТОМОК ЧИНГИС-ХАНА

モンゴルを占領していた英国の反革命侵略軍とソビエトのバルチザンが争う中、英国に利用されていたチンギス・カンの子孫が、ついにその専横ぶりに憤怒を爆発させる。壮大なアジアの民族解放闘争を、ソビエト映画の巨匠ブドフキンが描く。

'28(メジラブ・プロ) ●フセヴォド・ブドフキン ●ノヴォシヨノフ ●オシパ・ブリーク ●アナトリー・ゴロヴニャ ●セルゲイ・コスロフスキー、M・アロンソン ●ワレリー・インキジノフ、イワン・インキジノフ、ト・デディンツェフ、リュドミラ・ペリンスカヤ、アネル・スタケヴィチ、ヴィクトール・ツォビ、カレル・グルニャク、アンドレイ・チスチャコフ、ボリス・バルネット

2 6/15(金)6:00pm 6/24(日)0:00pm

嘆きの天使(107分・35mm・白黒)
DER BLAUE ENGEL

キャバレー歌手に恋をした謹厳な教師の破滅を描く、スタンバーグ監督唯一のドイツ映画。脚線美とハスキーな声で世界を魅了したディートリヒは、その後同監督とともに『モロッコ』(1930年)や『ブロード・ヴィナス』(1932年)などハリウッドで傑作を残した。

'30(ワーファ) ●ヨゼフ・フォン・シュテルンベルク(ジョセフ・フォン・スタンバーグ) ●ハインリッヒ・マン ●ロベルト・リープマン、カール・ツックマイヤー、カール・フォルメラ ●ギュンター・リッター、ハンス・シュネーベルガー ●オットー・フンテ、エミール・ハスラー ●フリードリッヒ・ホルンダー ●エミール・ヤニングス、マルレーネ・ディートリヒ、ハンス・アルバース



アジアの嵐

	金曜日	土曜日	日曜日
6	2:00pm 1 アジアの嵐	0:00pm 3 レベッカ	0:00pm 5 銃殺
	6:00pm 2 嘆きの天使	3:00pm 4 アメリカの影	3:00pm 6 アルファヴィル
7	2:00pm 7 有りがたうさん	0:00pm 9 切腹	0:00pm 2 嘆きの天使
	6:00pm 8 くちづけ	3:00pm 1 アジアの嵐	3:00pm 3 レベッカ
	2:00pm 6 アルファヴィル	0:00pm 7 有りがたうさん	0:00pm 8 くちづけ
	6:00pm 9 切腹	3:00pm 5 銃殺	3:00pm 4 アメリカの影

3 6/16(土)0:00pm 6/24(日)3:00pm

レベッカ(129分・35mm・白黒)
REBECCA

大恋愛の末に後妻として富豪の家に嫁いだ女が、その館に先妻レベッカの影を色濃く感じ、そして不気味な家政婦の存在に言い知れぬ恐怖を感じる。ヒッチコックがハリウッドに移って初めて撮った作品だが、英国上流階級の陰鬱な雰囲気こそこかしに漂わせる。

'40(セルズニック・プロ) ●アルフレッド・ヒッチコック ●ダフネ・デュ・モリエール ●ロバート・E・シャウウッド ●ジョージ・バーナズ ●ラウル・ウィーラー ●フランツ・ワックスマン ●ローレンス・オリヴィエ、ジョン・フォン・テーン、ジョージ・サンダース、ジュディス・アンダーソン、レオ・G・キャロル、ナイジェル・ブルース、レジナルド・デニ、セシル・オーブリー・スミス

4 6/16(土)3:00pm 7/1(日)3:00pm

アメリカの影(81分・35mm・白黒)
SHADOWS

ニューヨーク・インディペンデントの雄、俳優としても知られるカサヴェテスの初監督作。C・ミンガスらによる即興演奏、脚本を使わない演出、街頭での大胆なロケーション撮影により、若き混血ニューヨークカーたちの生々しい感情をすくい上げ、映画の新しい可能性を拓いた。

'60(マケンドリー・プロ) ●ジョン・カサヴェテス ●エリック・コルマー ●ランディ・ライルス、ボブ・リー ●シャフィ・ハディ、チャールズ・ミンガス ●ベン・カラザース、レリア・ゴールドニ、ヒュー・ハード、アンソニー・レイ、ルパート・クロッス、トム・アレン(リーズ)、デニス・サラス

5 6/17(日)0:00pm 6/30(土)3:00pm

銃殺(86分・35mm・白黒)
KING AND COUNTRY

第一次世界大戦を舞台に、逃亡罪で軍法会議にかけられた兵士をひとりて弁護する将校を、英国映画の名優ボガードが熱演した反戦映画。“赤狩り”のためにアメリカを去った監督ロージーの鋭利な演出は、フランスやイギリスで数々の傑作を生み出した。

'64(BHEプロダクション) ●ジョセフ・ロージー ●ジェームズ・ラスデール ●ホドソン ●エヴァン・ジョーンズ ●デニス・クープ ●ピーター・マリンス ●ラリー・アドラー ●ダーク・ボガード、トム・コートニー、レオ・マッカーン、ハリー・フォスター、ジェームズ・ヴァリアーズ、ピーター・コプリ、ジェームズ・ハンター、ジョナ・シーモア、ラリー・テイラー

6 6/17(日)3:00pm 6/29(金)2:00pm

アルファヴィル(99分・35mm・白黒)
ALPHAVILLE

コンピュータが人間を統治する異銀河都市アルファヴィルへ、探偵が行方不明の教授を探しに現れる。フィルム・ノワールなど他ジャンルの要素が混じり込み、SF映画のパロディの域に達したゴダールの異色作で、探偵が恋におちる教授の娘、アンナ・カリーナの流す涙が忘れがたい。

'66(シヨミアヌ・プロダクション) ●ジャン・リュック・ゴダール ●ラウル・クタル ●ピエール・ギュフロワ ●ポール・ミズラキ ●エディ・コンスタンティヌ、アンナ・カリーナ、エイキム・タミロフ、ジャン・ルイ・コマリ、ミシェル・ドラエ、ジャン・アンドレ・フィエスキ、クリスタ・ラング、ジャン・ピエール・レオー



アメリカの影

◆日本映画

7 6/22(金)2:00pm 6/30(土)0:00pm

有りがたうさん(78分・35mm・白黒)

「有りがたうさん」と呼ばれる、上原謙演じる朗らかなバス運転手が、乗客や行き違う人々と出会っては別れてゆく。ロケーション撮影や即興演出を排他的にまで好んだ、当時の映画界としては異端の演出家・清水宏のみずみずしいロード・ムービー。

'36(松竹大船) ●清水宏 ●川端康成 ●青木勇 ●堀内敬三 ●上原謙、石山隆嗣、仲英之助、桑野通子、築地まゆみ、二葉かほる、河村黎吉、忍節子、堺一二、山田長正、河原侃二、青野清

8 6/22(金)6:00pm 7/1(日)0:00pm

くちづけ(74分・35mm・白黒)

犯罪者を父に持った若い男と女が、面会に来た拘留所で知り合い、恋におちる。巨匠・溝口健二の助手出身でありながら、情緒を排した乾いたタッチで、戦後の日本映画に新世代の登場を告げた増村保造の鮮烈なデビュー作である。

'57(大映東京) ●増村保造 ●川口松太郎 ●船橋和郎 ●小原謙 ●治 ●下河原友雄 ●塚原哲夫 ●川口浩、野添ひとみ、三益愛子、若松和子、清水谷薫、入江洋佑、小澤栄太郎、若松健、河原侃二、吉井莞象、村瀬幸子、見明凡太郎

9 6/23(土)0:00pm 6/29(金)6:00pm

切腹(134分・35mm・白黒)

屋敷の庭先で切腹を申し出た浪人が、かつて同じ場所で腹を切らされた娘婿を回想し、その怨念を溶岩のように流出させる。超大作『人間の條件』(1959-61年)をはじめ、世の不条理に対し一貫して異議を申し立てた小林正樹の重厚かつ緻密な作品である。

'62(松竹京都) ●小林正樹 ●滝口康彦 ●橋本忍 ●宮島義勇 ●戸田重昌、大角純平 ●武満徹 ●仲代達矢、石浜朗、岩下志麻、丹波哲郎、三島雅夫、中谷一郎、佐藤慶、稲葉義男、井川比佐志、武内亨、青木義朗、松村達雄、三国連太郎

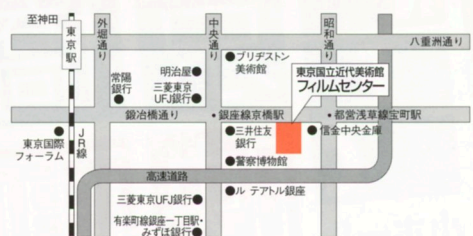


有りがたうさん

●《京橋映画小劇場》とは

平成18(2006)年度よりフィルムセンターは、これまで教育機関のための特別映写や一部の共催事業の会場として使用されてきた小ホールを、《京橋映画小劇場》(KYOBASHI-ZA)の名のもと、年に数回、フィルムセンターの主催上映企画にも利用し、さらなる上映活動の拡充を図ることとなりました。

フィルムセンター所蔵作品の公開を中心に、外部団体との共催企画も引き続き模索しつつ、多彩な上映企画の実現を目指します。大ホール・展示室企画ともども、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:
東京外口銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
JR東口有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600
NFCホームページ:
<http://www.momat.jp/jp/>
NFC携帯電話ウェブサイト:
<http://www.momat.jp/nfc/w/>

